



図們江流域經濟圏視察報告

常務理事 池 井 輝 夫

はじめに

21世紀に向かって鳥取県の発展策を考えると、日本海（韓国・北朝鮮では東海）を隔てた対岸諸国が今後どのように開発を進めようとしているのか、その動向を把握するとともに、現在それらの国々が開発のために何を必要としているのか、あるいは我が国に対してどのような期待を持っているのかなど新しい情報に接することが必要である。

そして新しい情報を得るためには、その国や当該地域の行政担当者、開発担当者、研究機関、企業家などとの間における緊密な人的ネットワークの構築が必要であって、特に、当方の意図するところを相手方に理解してもらい良質な情報を提供してもらうためには、こちらの情報も発信し、大いにアピールしなければならない。

このような課題に対処し、その中から本県の発展策を見つけることを目的として（財）とっとり政策総合研究センターは、「環日本海交流」に関する調査研究を設立目的の一つとしている。

今回の視察は、東西センター（米国ハワイ州）の趙利済副総裁を議長とする「北東アジア経済フォーラム」の第6回会議（1996年1月ハワイにおいて開催）の現地トリップに参加したものである。

現地では、各国とも国内事情、インフラの整備、資本の投下、エネルギー問題など多くの課題を抱えているにも関わらず予想以上の早さと熱気で開発を進めていた。特に韓国の参加と進出にはめざましいものがあった。

ここでは視察した現地状況や会談をした関係者の説明について報告するとともに同地域の開発に関する基礎的事項や経緯についても触れてみた。

※（「筆者注」以下同じ。）

①本文においては、会談した方の説明を忠実に再現

することとした。できる限り他の資料により確認に努めたが確認できない情報もあったことをおことわりする。

②会談の発言内容の表現については、会談の時期を基準に記述した。

概 要

（1）期 間

平成7年（1995年）

11月11日（土）～ 11月20日（月）

（2）訪問国及び主な訪問都市等（別添略地図参照）

- ・中華人民共和国（「中国」と記述する。）
吉林省延辺朝鮮族自治州 延辺市、琿春市、圖河、防川、長嶺子
- ・朝鮮民主主義人民共和国（「北朝鮮」と記述する。）
羅津港、先鋒港、南陽、セツピョル、豆満江
- ・ロシア連邦（「ロシア」と記述する。）
カミショーエ、スラビヤンカ、ザルビノ港
ウラジオストク

（3）参加者 資料1参照

（4）日 程 資料2参照

（5）主な視察目的

- ①図們江流域の各経済開発区等の開発の現状とインフラの整備状況及び相互補完関係の調査を行うこと。
- ②当該地域の開発及び経済活動に対する本県（県内企業も含めて。）の関与方策をさぐること。
- ③北東アジア経済と同地域の開発計画についての我が国の最高権威金森久夫日本経済研究所会長（環

日本海経済研究所理事長兼務)の直接の御指導を受けること。

- ④1996年1月に開催された「第6回北東アジア経済フォーラム」は、開催地が米国ハワイ州とされたため、開催時に図們江流域等現地視察ができないうので事前のトリップに参加することにより現地状況を把握すること。
- ⑤我が国の環日本海関係研究者等との交流を図ること。
- ⑥当該地域の行政担当者、開発担当者、研究機関、企業家などとの間に人的ネットワークを構築すること。
- ⑦当該地域の関係機関等に対し、広く鳥取県をアピールするとともにとっとり総研の紹介、1997年開催の山陰・夢みなと博覧会の宣伝を行うこと。

報告事項

- I. 図們江流域開発の概要
- II. 図們江地区の開発について
- III. UNIDO投資フォーラム等について
- IV. 図們江地区の開発と海運について
- V. 羅津・先鋒自由経済貿易地帯について
- VI. 琿春とザルビノ港を結ぶ交通インフラについて
- VII. その他の特記事項

I. 図們江流域開発の概要

1. 図們江開発(北朝鮮では、豆満江開発)

図們江は、長白山(北朝鮮では、白頭山)を源流とする全長516kmの河川である。

日本海との河口地域では、わずかに数キロメートルの間に中国、北朝鮮、ロシアが国境を接している。

この地域をこれらの3か国が共同して経済を中心とした開発を進めようとするプロジェクト計画が「図們江開発計画」である。

この構想は、1990年7月、ハワイ・東西センターと中国アジア太平洋研究会の主催で吉林省長春で開催された「北東アジア経済発展国際会議」において中国

側「ウラジオストク・図們江・清津ゴールデンデルタ開発構想」として、丁士晟氏(吉林省人民政府副秘書長・吉林大学教授)により初めて公にされたものである。

※ 参考

・図們江開発構想の発案

図們江開発構想については、1985年に国務院会議で宋健博士(国家科学技術委員会主任)が提唱された。

その後1988年宋健氏と東西センター趙利済副総裁がこの件について協議し、推進されることになった。

(1996. 1. 18 於ハワイ)

王雨生氏(中国亜太研究会副理事長;宋健氏夫人)が鳥取県代表団(団長竹内企画部長)に対し、語られた。

この国際会議には、7か国の研究者や経済人が参加したほかUNDP(国連開発計画)の北京駐在員も参加してこの計画を高く評価し、その結果UNDPが開発に関与することになった。

1991年3月UNDPは、その第5次事業計画(1992年~96年)において、3国の共同開発構想を北東アジア協力事業として打ち出した。

図們江の開発区域は、開発の核となる小三角地帯とそれを囲む大三角地帯から構成されている。

小三角地帯 面積1,000km²

琿春-羅津-ザルビノ

大三角地帯 面積10,000km²

延吉-清津-ウラジオストク

2. 三国の協力

この図們江流域は、中国、ロシア、北朝鮮の3国が協力しなければ発展できない地域である。

中国については、琿春边境経済合作区において製造された製品を海外に輸出する場合、従来なら大連港まで陸路輸送(長春経由で1,250km)し、船に積み込まれることになる。

このような輸送費の高い陸路輸送の距離を短くするためには、直接日本海に出て海上輸送することが必要である。

しかしながら、中国の国境線は、図們江の河口から15km（防川から日本海まで）のところにあって、ソ連当時中国は、同国から同河のロシア側（河川の最も深いところがロシアと北朝鮮の国境である）について、航行権を得ていたが、現在でも北朝鮮側については、航行権を有していない。

仮に北朝鮮から航行権が得られた場合であっても図們江は、防川から河口までの間は、土砂のたい積がひどく浅瀬となっているので、貨物船の航行は不可能である。

また、仮に浚渫を行っても上流の長白山からの土砂によりすぐに埋まってしまうという危惧がある。

従って、中国の琿春辺境経済合作区の経済発展を図るためには、北朝鮮又はロシアの協力を得て日本海の港（ザルビノ・羅津等）を利用する必要がある。

同様に、ロシアの沿海州、北朝鮮の羅津・先鋒自由経済貿易地帯の発展のためには、中国東北三省、特に琿春辺境経済合作区が発展することとそれら地域と同合作区との密接な連携が必須であり、相互に補完関係をなしているといえる。

今回の視察で感じたことは、各国の協力関係は比較的うまくいっているということで、解決の必要な課題があるものの急速に連携のための道路、鉄道、税関など関係インフラの整備が進められていた。

3. 開発の考え方

現段階では、3国がそれぞれ開発を行うこととし、その推進のために各国政府による「3カ国調整（協調）委員会」を発足させた。

（12月6日ニューヨークで協定書に調印）

また、図們江地域と北東アジア一帯の開発を協議するため、この3か国にモンゴルと韓国を加えた、「5か国諮問委員会」も発足（調印）した。

このことにより、開発の主導は、国連から当事国に移ることになった。

また、技術的支援等のため図們江信託基金が設けられることとなった。

このように韓国と北朝鮮が同じテーブルにつき、委員会を発足させるということは、画期的なことであり、同地域の開発の将来に明るい見通しがたったといえる。

4. 琿春地区の現状について

琿春地区は、中・ロ両国が対立していた当時は、両国が国境を接しているということで軍事都市としての防衛上の要衝であったため1991年までは外国人を入れなかった。

現在は、辺境経済合作区（92年5月国により指定）として 図們江開発の中心となっており、韓国から進出したメリヤス工場など11社が操業を開始している。

また、韓国財閥系の鉄パイプ企業など14社も近く操業を開始する予定であり、工場の建物の建設も終わっていた。



琿春経済開発区完成模型

操業開始する企業の中には、日系企業も7社含まれている。

外国人居住区であり別荘地として開発された太陽村も完成している。

琿春市の人口は、現在25万人であるが将来は、100万人都市となるものと予想されている。

同地区のインフラについても、五路（道路・電気・上水道・下水道・通信）は、完成している。

しかし、ガスが未整備であり、エネルギーの確保が開発課題となっている。

5. 羅津・先鋒地区の現状について

1991年12月28日北朝鮮政務院は、羅津・先鋒地区について、621km²（後に746km²）を自由経済貿易地帯とすることを決定した。

※北朝鮮対外経済推進委員会発行「ゴールデン・トライアングル」による。

金森先生によるとこの半年間でかなりの展開があったようである。

まず、自由貿易地帯の周囲を鉄条網で囲みこの地域については、外国人はビザなしで入れることとした。

100の客室（200人収容）を持つ近代のホテル（羅津ホテル：米系韓国資本）も建設途中で1996年中には、完成の予定である。

その他、鉄道、高速道路、港湾、空港などインフラの整備も進められている。

6. 総括

図們江開発について、3国間の取り組みや進捗状況にはかなりの差があり、全体としてもインフラ整備等についてはまだまだの感はあるが、遅速ながらも確実な開発の動きがみられた。

社会資本等の投資についてみると先にも述べたが当初は、必要額（UNDP試算）が、20年計画で300億ドルといわれていたが、現在は、30年で1千億ドルが必要であるといわれている。

従って、北東アジア開発銀行等の構想について協議が進められる（北東アジア経済フォーラム等において）とともに諸外国とりわけて日本からの投資が待たれている。

本県など環日本海地域の各府県は、今後の図們江地

域をはじめ 東北アジア地域の発展が我が国の日本海沿岸各地域はもとより我が国全域に及ぼす影響を理解し、我が国政府に対し、「（北東アジア開発）諮問委員会」への参加を求めるとともに投資をはじめとする国の積極的な施策の展開を求めていく必要がある。

II. 図們江地区の開発について（会見）

延辺朝鮮族人民政府

副秘書長 姜（ショウ）載桓氏

1. 延辺朝鮮族自治州について

当自治州は、UNDPの対象地域である。

現在延吉空港の国際化を図っており、空港ターミナルは、96年中に完成する。

電話の普及率は中国でもトップである。各家庭にも設置されている。

衛星通信が年末には、完成する。中国国内で衛星通信が可能なのは、延吉市ほか3市のみである。

教育水準が高く、人口10万人中3,037名が大卒（中国全土平均の2.5倍）であり、また、中・高校における日本語の授業は、英語より盛んである。

※多くの住民が中国語と韓国語を併用しており延辺市内など自治州内の商店の看板も漢字とハングル文字が併記されている。

延吉市における外資との合弁企業は、670社である。これまで中小企業が中心であったが、最近、現代や大宇（韓国の財閥系）が入ってきている。

延吉では、カラオケやパチンコ店もある。

2. 図們江流域開発計画について

（1）本年（95年）北京で開催されたUNDPの第5回計画委員会（PMC）で2つの協定が仮調印された。

①中・朝・ロ3か国調整（協調）委員会設置協定

※図們江地区開発計画の促進組織

②5か国諮問委員会設置協定

③環境保護に関する覚え書き

正式調印は、12月4日ニューヨークで行う予定である。

※この調印は、実際には、12月6日にニューヨークで行われた。

(2) 昨年(94年)までは、図們江流域開発計画に関する各国の見方は、バラバラであったが、今年になって国際合作でやろうという認識が共通となり、図們江開発会社を作ろうという提案も出てきた。

3. ロシアの開発状況

最近鉄道に関しては、ロシア側が中国側よりも積極的である。

※今回のトリップで現地確認をし、そのような印象を受けた。

昨年7月と今年7月に、ロシアのチェルノムイジン首相とザルビノ港の拡張について話し合ったが、同国では、これに外資を導入し、モスクワの中央政府が債務保証を行うことになっているということであった。

沿海州には、多くの港があるが、ロシア側でも、整備の第1プライオリティは、ザルビノ港となっている。

4. 北朝鮮について

北朝鮮の対外経済協力推進委員会では、各種法律(外資導入等のため)を整備しており、外国企業に対する優遇条件は、中国よりも上である。

しかしながら、国際合作が難しいのは確かであり、特に北朝鮮と韓国を同じテーブルにつかせることは、困難である。

今後は、上記の諮問委員会5か国に日本も加えて6か国の合作を目指したい。

日本政府の積極的な参加を期待するものである。

5. UNDPについて

現在のところUNDP関連で、オーストラリア、アメリカ、フランス、イギリスからの派遣が多いが、UNDPは、必ずしも十分に当地域のことを理解しているとは言い難い。

我々は、日本企業に参加を求めため現実的なプロジェクトを提示したい。

6. アメリカの参加

この計画にアメリカが本格的に参加してくることも

重要であると考えている。その意味でも第6回の北東アジア経済フォーラムがハワイ・ホノルルで開催されることには賛成であり、私自信も参加について考えた。

※姜氏は、フォーラムには、米国大使館等の業務停止(国家予算の議決関係)のためビザ(査証)がとれず出席されなかった。残念である。

7. 延辺投資フォーラム(投資会議)の開催について

(1) 開催日時 10月10日~15日 於:延吉市

(2) 主催

UNIDO(国連工業開発機関)、中国対外経済貿易部、吉林省政府、延辺朝鮮族自治州人民政府の共催

(3) 提示プロジェクト

開催については、1年前から準備を始めた。

中国側では、401プロジェクトを提示し、その中からUNIDOが144件を選んだ。

(4) 参加国及び参加人員

31か国から370名の参加があった。

(5) これまでに、件数で142件、金額で9億5000万ドルの仮契約がなされた。

Ⅲ. UNIDO投資フォーラム等の開催について

(会見)

吉林省図們江開発弁公室 馬 龍英氏

10月30日談

1. UNIDO投資フォーラムの成果

件数 100件 契約金額 8億ドル

2. ウラジオストク-延吉間不定期貨物空路

1995年8月から就航

3. 琿春辺境経済合作区について

2億ドルの契約 主な契約先は、韓国企業である。

日本企業との契約は、8件1,400万ドルであり日本企業が少ないのは、日本国政府が図們江流域開発に対して関心を持たないからである。

※UNIDO イアン・デビス 氏

にいがた21の会編「図們江流域視察報告書」から

①181件の契約 940百万ドル
参加者 355人(当初計画 200人)
当初韓国が熱心で全体で500人位参加の予想
→韓国政府「参加は好ましくない。」と発言した
ため少なくなった。

②1996年6月羅津・先鋒、9月ウラジオストク
・ナホトカで開催予定

③地域のインフラ整備
国家レベルでなく吉林省でやっている。

④北朝鮮について国連は、安定していると理解して
いる。

※吉林省地方鉄道管理局資料

1) 図們-琿春(56.35km)の鉄道敷設
90%進捗 1996.8運行開始予定

2) 琿春-長嶺子(25km)
ロシア国境まで300メートル残して完成
1996.8完成予定

琿春-ザルピノ間
1996.12運行開始希望

中国側課題-48億円の資金不足

IV. 図們江地区の開発と海運について(会見)

中国延辺航運公司会長 全 龍萬氏
(13日10時~於:白山大厦)

1. 会社の概要

1992年州政府の指示によって設立された国際海
運会社である。

93年3月24日中央政府の許可取得
本社所在地:延吉市

2. 東龍海運の設立について

本年5月に韓国の企業(韓国特殊船)と相互に50
%出資して設立した。

羅津-釜山航路の第1便が9月30日羅津港を出航
し、10月1日に釜山港に到着して以来これまで(11
月13日まで)に8回運航している。

羅津-釜山間の運航時間は、41時間(約2日)で

ある。

北朝鮮は、これまで政治的理由から公表をさけてい
たが、11月10日に羅津港で就航式を開催した。

3. 羅津港について

羅津港に、20フィートと40フィートのコンテナ
を積むために110トンのモービル・クレーンを運び
込んだ。

※既設のクレーンでは、コンテナ対応できない。

積み荷は、釜山港がメリヤスやチップ等の原材料で、
羅津港では、それを中国で加工した衣類や木製品、ま
つたけ、泥炭などである。

中国国境の元江橋から羅津港までは、51kmで所
要時間は約1時間30分である。

トラックは1日で羅津-延吉間を往復している。

北朝鮮は、関税など一切の税金を免除し、コンテナ
の内容検査も行わない。

すなわち、羅津港は、ただ通過するだけであり、韓
国側には、(※北朝鮮を意識せず)中国の港であると
考えてほしいと言っている。

来年の上半期には、日本ともコンテナ定期便を開設
したいと考えているが、これは、北朝鮮と日本の問題
ではなく、韓国、中国と日本の問題であると考えて積
極的に協力していただきたい。

※日本との間のコンテナ便に利用する港は、新潟港
という話がある。

V. 羅津、先鋒自由経済貿易地帯について(会見)

北朝鮮対外経済協力推進委員会

金 應烈(キム・ウンリョル) 副委員長

(16日17時~於:琵琶招待所会議室)

1. 羅津-先鋒自由経済貿易地帯への投資動向

これまでに、同地帯への海外視察団を、約100団
体受け入れた。

契約額 2億5,000万ドル:約20プロジェクト
である。

うち、既投資額は、2,000万ドルである。

契約した各国別プロジェクトの内訳は、

韓国 3 (貿易センター、通信分野)

オランダ国際銀行

香港の銀行

羅津ホテル (米国系韓国人)

中国 6 (中国延吉-清津-会寧間道路他)

在日朝鮮総連系会社 2

日本 (兼松-港湾整備)

イギリス

アメリカの会社については、契約はまだしていないが現在GM、Shell、スタントン・グループ (エネルギー関連) 等と交渉中である。

外国人事務所は、当面ピョンヤンに集中させる。

外国人事務所の開設は、95年から活発になり現在オランダ国際銀行をはじめヨーロッパのコンサルティング会社が事務所を開設している。

2. 羅津港について

11月10日に羅津-釜山の定期船運航の就航式を行った。

同航路は、中国延辺航運公司 (本社:延吉市) と韓国特殊船が50%ずつ出資して設立した東龍海運によって運営されており、第1便は、9月30日に羅津港を出航し、10月1日に釜山港に到着した。

コンテナの積み下ろしをするために、香港から110トン級のモービル・クレーンを運び入れた。

3. 道路と税関について

9月に元汀橋 (ウォンジョンキョウ) を開通し、元汀里 (ウォンジョンリ) から羅津までの道路を拡張するとともに、自由貿易経済地帯の境界に鉄線を張り巡らした。

現在第三人が同橋を通行できないのは、中国側の問題であり、北朝鮮には問題はない。

中国側の圏河では、現在税関の建物を建設中であり、これが完成する来年半ば頃には、圏河が1級税関 (現在2級税関) になり、第三人の通行も可能になる。

4. 通信設備

羅津から元汀橋を経由して珲春までの光ケーブルの敷設は完了した。

現在、羅津-清津間の光ケーブルを敷設中である。

5. ホテル

現在羅津ホテルを建設中で来年3月に完成予定

客室 100室 収容人員 200人

6. 開発資金

96年には、国が1億ドルの投資をする予定であるが、これだけでは不十分であり、外資の導入が不可欠である。

自由貿易経済地帯をアピールするための海外事務所は、現在中国の北京、延吉、広州に置いているが他の国にはない。



金應烈氏 (中央) とフィールドトリップ参加者 著者は後列中央

来年5月（※6月か）UNIDO主催の投資フォーラムの開催を予定しており、現在UNIDOは、現地の工場を視察し、フイジビリティスタディを行っている。

VI. 中国琿春とロシアザルピノ港を結ぶ交通インフラについて

1. 鉄道状況

(1) 琿春国際駅について

琿春辺境経済合作区管理委員会

副主任 孟 繁 唱氏

現在、駅舎（積み替え駅）及び通信・信号のための建物を建設中であり、来年の上半期には、完成する予定である。

※「積み替え駅」

コンテナを、広軌の貨車（ロシア）から標準軌の貨車（中国）車に積み替える駅

(2) ロシア側のザルピノと長嶺子間の鉄道敷設について

コリャーコフ ロシア軍鉄道施設部隊長

カミショーエ駅（予定地）は、クラスキノから中国側14kmの地点にある。

ここがロシア側の積み替え駅で、ここから国境のハサン駅（北朝鮮との国境）までは、すでに鉄道がある。

カミショーエ駅付近の線路は、広軌（ロシア）と標準軌（中国、北朝鮮）が併設されている。

この鉄道は、本年4月から軍の鉄道施設部隊により、敷設工事が進められている。

→1日約1kmの敷設能力がある。

資金は、金環株式会社（株主：ロシア極東鉄道、バイカル鉄道、沿海州政府等）が提供している。

3か月後（96.2月）には、試運転して貨車の通行が可能となる予定である。

※ダーリニ・ヴォストーク通信12月6日号記事から

琿春ークラスキノ鉄道支線総延長 50km

中国側：琿春ー国境（長嶺子） 30km

ロシア側：クラスキノー国境 20km

①鉄道建設は、ロシア、中国同時に開始され95年が2年目である。

②ロシア側の建設が中国より進んでおり、国境まであと5km

2. 道路状況

ザルピノー琿春間の道路も建設中である。建設は、ロドク（ロシア鉄道株式会社）が行っている。

※ダーリニ・ヴォストーク通信12月6日号記事

①琿春ークラスキノ自動車道路工事は、12月下旬完成予定

来年3月には試運転・開通の予定。

②ロシアの関係港湾

ハサン、ザルピノ、ナホトカ、ポストチヌイ、ウラジオストク

③開通の日程協議

11月14・15日スラビヤンカ（ハサン地区中心地）において、中国吉林省リュウ・シンリン副省長とロシア沿海地方イーゴリ・ベルチュク副知事を代表とした混成作業グループの第2回会議（第1回会議は、本年6月開催）において日程等が協議された。

④貨物輸送量予測

リュウ・シーリン副知事談

1996年 300万トン

将来予測 鉄道路線の1本増設を踏まえて1,000万トンに達する可能性がある。

VII. その他特記事項

1. 北朝鮮の観光資源と経済

琿春市図們江開発弁公室 金 鉄氏談

北朝鮮の東海岸は、風光明媚なので、これを観光資源として活用すればかなりの外貨がかせげる。

現状では、宿泊施設、交通（バス）に問題がある。

来年は、香港から1,000人乗りの船を借りて、これを宿泊施設として東草→羅津→釜山の観光ルートをつくる計画がある。

琿春→圈河（元汀橋）→羅津の2日間観光を復活する計画もある。羅津には、2つの海水浴場がある。

2. 国境の第三人の通過について

現在（95.11月）第三人の通過が可能な国境

図們（中国）→南陽（北朝鮮）

豆満江（北朝鮮）→ハサン（ロシア）

今後通過ができる国境

①圈河（中国）→元汀橋→元汀里（北朝鮮）

中国側の1級税関の完成待ち

②長嶺子（中国）→クラスキノ（ロシア）

吉林省の劉希林（リュウ・シンリン）副省長が下記会議で交渉した。

11月14・15日スラビヤンカ吉林省リュウ・シンリン副省長とロシアイーゴリ・ベルチュク副知事を代表とした第2回会議

資料1

・敬称略

北東アジア経済フォーラム
フィールドトリップ参加者

(財) 日本経済研究センター

会 長 金 森 久 雄

(財) 日本経済研究センター

総務部長 佐 藤 環

EAST-WEST CENTER (在ハワイ)

RESEARCH FELLOW 中 野 有

日本社会党

中央執行委員 温 井 寛

北陸環日本海経済交流促進協議会

企画課長 北 村 浩 一

JTB公務営業本部

部 長 小 島 隆

(財) とっとり政策総合研究センター

常務理事 池 井 輝 夫

図們江流域（中国・北朝鮮・ロシア）視察日程

日 時	視察先等	視 察 内 容 及 び 特 記 事 項	宿泊・交通
11月12日 (日)			
10:52	成田空港発		JAL905便
時差+1			
14:06	北京空降着	・吉林省中国国際旅行社 藍 生 地氏出迎え 金剛山観光(本社 平壤)五十嵐 慶子氏 〃	
	(乗り換え)	・空港内で延辺朝鮮族自治州人民政府姜副秘書長に偶然 出会う	
17:45	北京空港発		CA1615便
19:20	延吉空降着	・延吉空港は工事中→国際空港としての機能を充実 ターミナルビル等の建設中	白山大厦
11月13日 (月)			
9:00	白山大厦	・延辺朝鮮族自治州人民政府姜副秘書長から 「延辺投資フォーラム」「図們江流域開発計画」 について説明を受ける。	
10:20	〃	・中国延辺航運公司全 龍萬会長から羅津→釜山コンテ ナ定期航路について説明を受ける。	
12:00	〃	・姜副秘書長及び全龍萬会長による招待宴	
13:30	白山大厦出発	・琿春市へ向かう。	マイクロバス
14:30	東方熊樂園着	・ツキノワグマを飼育して熊の胃(正しくは肝臓)を採 取・日中合弁企業(未確認)が経営する熊牧場を視察	
15:30	〃 出発	・珍しく雨	
17:45	琿春賓館着	・琿春市図們江開発弁公室金 鉄氏を囲み夕食	琿春賓館
11月14日 (火)			
7:35	琿春賓館発	・圈河、敬信、防川(口、朝国境地帯)へ出発	マイクロバス
8:35	圈河通過	・圈河・元汀橋(ウォンデオンギョ)への分岐点通過	
8:50	防川着	・図們江の中国領はここ(防川)までである。 ・防川から河口(日本海)までは、15km(17km説あり)	
8:50	防川視察	・近くに防川の村落あり。 ・中国人民軍の監視塔あり。国境周辺は、撮影禁止 展望台から中・ロ国境、ロシアのハサン駅、親善橋 (チンソンキョウ)、北朝鮮豆満江地区などが見える。	

日 時	視察先等	視 察 内 容 及 び 特 記 事 項	宿泊・交通	
9:30	防川発	<ul style="list-style-type: none"> ・近くの船着き場には、小型観光船が係留されている。 ・河は、非常に喫水が浅く、河口までの大型貨物船等の航行は現状では困難である。 	琿春賓館	
9:50	圈河着	<ul style="list-style-type: none"> ・また、同河の浚渫も非常に難工事になると思われる。 ・圈河橋の税関を第三人の通過できる一級税関にするために中国の税関施設が建設改良中であった。 ・圈河橋は、琿春経済合作区と羅津・先鋒等の港を結ぶ最短距離のコースである。 ・圈河橋の上を北朝鮮との国境線まで進む。 ・対岸には北朝鮮の税関施設が見える。 ・橋：1939年完成（北朝鮮では元汀橋） ・長さ518メートル、幅約6メートル（目測） 		
11:35	沙柁子着			
12:20	琿春賓館着	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食 		
13:30	琿春賓館発	<ul style="list-style-type: none"> ・琿春経済合作区及びロシアとの国境地区視察 		
13:50	長嶺子着	<ul style="list-style-type: none"> ・長嶺子税関（ロシアとの国境）視察、 ・琿春市から国境までの道路は（高規格で）コンクリート舗装されている。（有料） 		
14:10	琿春国際駅着	<ul style="list-style-type: none"> ・国際駅予定地視察－ロシアに向かう線路工事未着工 ・工事途中の信号所、貨物駅などのビルが建っていた。 		
14:15	保税倉庫着	<ul style="list-style-type: none"> ・保税倉庫（8,100㎡）視察、現在使用中 		
14:20	経済合作区着	<ul style="list-style-type: none"> ・琿春辺境経済合作区管理委員会事務所訪問 ・孟繁盛副主任から合作区の計画概要の説明を受ける ・ビデオによる説明もあった。 		
15:30	同管理委員会発			
15:50	東一メリヤス工場着	<ul style="list-style-type: none"> ・琿春東一メリヤス有限公司（中国・韓国合弁企業）視察、蔡洙哲社長が自ら説明及び工場案内 		
17:30	自由市場着	<ul style="list-style-type: none"> ・視察－非常に活気があったが閉店時間が早く閉店準備中であった。 		
18:00	琿春賓館着			
11月15日 (水)				
6:30	琿春賓館発	<ul style="list-style-type: none"> ・早朝出発のためホテルの朝食が準備できないので市内の食堂で朝食を摂る。 		マイクロバス

日 時	視察先等	視 察 内 容 及 び 特 記 事 項	宿泊・交通
	琿春市内	・子供連れの市民が次々に来店し、朝食をとっていた。 一部市民には、朝食は外食の習慣ありとの説明	
7:30	用湾子着	・用湾子橋視察	
7:40	密江村通過		
8:15	図們税関着	・通関手続開始時間を待つ。周辺には土産物店や小公園 があり国境の緊張感はなかった。	
9:20	図們税関発	・担当官の話では、8:30分に通関業務を開始予定。 ・図們橋（475m）を徒歩で渡る。 北朝鮮・朝鮮民主主義人民共和国へ入国	徒 歩
時差+1			
10:30	南陽税関着	・南陽（ナムヤン）市→羅津まで120Km ・金剛山観光の金成俊（キムソンジュン）氏と金哲 浩（キム Cholho）氏が出迎え ・マイクロバスには、運転手の他に、VTRスタッフ2 名が待っていた。	
10:50	南陽税関発	・自由経済貿易地帯までの途中は、撮影禁止	マイクロバス
11:25	穩城を通過		
11:30	王在山招待所	・昼食 松の実入りのお粥が非常においしかった。	
13:00	王在山招待所		
14:00	セッピョル通	・沙柁子の対岸に当たる柳多島（リュダド）は遠くて 確認できなかった。	
14:35	新建駅通過	電化された広軌、標準軌兼用線路が続いていた。	
15:20	自由経済区入	・山肌や田畑に自由経済貿易地帯を囲む鉄条網があった ・自由経済貿易地帯の入り口でチェックがあった。	
15:45	元汀里着	・元汀橋（ウォンジョンギョ：中国では、圈河橋）を国 境（中国）まで渡る。 昨日は、中国側から国境（北朝鮮）まで渡った。 ・税関施設もあり、第三人の通過準備はできているの で中国側の税関の整備待ちという説明であった。 ・当然中国人は、この国境を通過できて羅津港等への輸 送トラックは通過しているとの説明であった。	
16:15	元汀里発		
17:10	先鋒通過	・山間部から平野に下る。野菜栽培用の温室が沢山見え る。	
17:30	琵琶招待所着	・羅津、先鋒の中間の人里離れた高台の松林の中に建て られていた。非常に風光明媚であり貴重な観光資源と して開発の可能性を有している。	琵琶招待所

日 時	視察先等	視 察 内 容 及 び 特 記 事 項	宿泊・交通	
11月16日 (木)				
8:50	琵琶招待所発	・招待所の食堂でUNIDOのウィロット氏に会う。	マイクロバス	
9:15	羅津港着	・途中羅津と先鋒を結ぶ道路のトンネル工事現場を通過 ・羅津市対外事務局キム・ドヨン氏の港湾の説明。 ・港湾の記念日ということで港湾労働者の運動会が催されていた。		
10:25	羅津港発	・途中南山ホテル(旧大和ホテル)を視察		
11:05	羅津展望台着	・羅津港が一望できる。 近くに羅津第一ホテル(韓国系資本200室、400人収容)が概ね出来上がっており、1996年中には完成予定である。 ・近くでは、通信センターの基礎工事も開始されていた ・ヘリポートの建設予定についても説明を受けた。 ・市内の大通りの道路工事は、清津→羅津までの光ケーブルの敷設工事であると説明があった。		
12:15	琵琶招待所着			
13:40	琵琶招待所発	・先鋒港へ ・途中の展望台から先鋒地区及び港を望む。		
14:10	石油工場着	・「勝利石油化学工場」は、現在原油の輸入がないため稼動していないとの説明があった。		
	重油発電所着	・KEDO(朝鮮半島エネルギー開発機構)から支援の重油を使用して発電していた。 能力:20万kw		
15:10	先鋒港着	・原油等輸入港 沖合にタンカーバース ・港湾局パク・キョンソム技師長説明		
15:25	先鋒港発			
16:00	琵琶島着	・水は透明で非常に風光明媚な島であった。		
17:00	会 議	・北朝鮮の対外経済協力推進委員会の金應烈副委員長から「羅津・先鋒自由経済貿易地帯」の説明を受ける 通訳:同委員会金哲煥氏		
19:00	夕食会	・金副委員長を囲み夕食会		琵琶招待所
11月17日 (金)				
8:05	琵琶招待所発	・途中鮎浦里(ブポリ)付近で先鋒空港予定地通過	マイクロバス	
9:25	豆満江駅着	通関及び越境時間未定 国境のため駅周辺は写真撮影禁止		

日 時	視察先等	視 察 内 容 及 び 特 記 事 項	宿泊・交通
9:40	親善橋着	・北朝鮮とロシア国境の親善橋（鉄橋－640m）を視察 広軌と標準軌が併設 橋の国境線（河の一番深いところ）まで徒歩でわたる 国境警備の兵士（専用列車まで同行）が案内 対岸の防川（中国）の展望台の観光客が見える。	専用列車
10:45	豆満江駅着	・マイクロバス車内待機、カップ麺による昼食	
12:40	越境列車乗車	・列車乗車、専用の列車は、客車1両のみ ・車内において税関職員による通関荷物検査 鉄道関係者2名乗り込む	
13:55	豆満江駅発車	・列車発車 税関職員、駅関係者等多数の見送りを受け 先ほど視察した親善橋を渡る。	
時差+1			
15:05	ハサン駅着	・ロシア人の女性（40才位か）が乗車してきてロシア語で話しかけられた。→全員意味分からず ・多分検疫担当官と推測－全員の顔色を見て納得する。 ・下車するとロシアの国境警備隊兵士が多数警備中 C I Qに入る。 ・入国検査で1時間の足止め。 理由：在日本大使館等で査証の処理のミス ・当該イミグレーションでは判断できないのでウラジオの上級官庁に問い合わせて許可をとった様子。 ・税関では、所持金を種類ごとに申告書で申告させられ所持金を全て提出させて係官がかぞえ疑問が生じたり額が合わない場合は別室で取り調べを受ける。	マイクロバス
17:00	ハサン駅発	・ガイドのセルゲイ氏出迎え。 日本語が非常に流ちょうで、案内は丁寧親切である。	
18:00	カミショーエ着	・鉄道敷設現場着 瑋春 － 長嶺子 － ザルビノ港 ・鉄道建設部隊駐屯地近くの現場で隊長から説明を受ける。長嶺子まで3キロの地点までは、敷設完了 ・レールは、広軌（ロシア）と標準軌（中国）が併設 今回の視察では、4本レールの併設軌道を時々見ることができた。	
18:15	カミショーエ発	・カミショーエ駅は、積み替え駅になる予定。	ホテル
19:45	スピアカ着	・ホテル着：名前は不明（有るのかないのかも不明。） 住宅団地の1戸を数部屋に区切り使用。1部屋が3畳くらいの部屋で当然食事の準備なし。 ・夕食は、市内のレストラン「フェニックス」で食べる	

日 時	視察先等	視 察 内 容 及 び 特 記 事 項	宿泊・交通
11月18日 (土)			
8:55	ホテル発	・周辺は、大きな団地で近くには、スラビアンカ港の施設が見える。	マイクロバス
9:05	ザルノ港着	・10時過ぎからハサンスキ商業港株式会社のコクトフ氏の案内で同港を視察。羅津港より小さいが船舶多く活気がある。	
11:15	ザルノ港発	・道路は幹線道路であるが未舗装 ・ホテルにもどり近くの住宅棟の1階にあるマーケットを視察する。 日本で得た知識と異なり物資は、豊富であった。	
13:15	スラビアンカ発	・砂埃の道路をウラジオに向かう。山のふもとに、ダンチャ(別荘)が連なり、畑には人々も見える。	
16:30	ウラジオ着	・ホテル「アクフェス西洋」に入る。ウラジオ市の新市街地に所在していた。 ・ゼソングループ出資の本格的なホテル	
16:50	ホテル発	・旧市内へ出発	
19:15	夕食	・レストラン「ノスタルジア」で夕食 セルゲイ氏の所属する旅行社のアンドレイ副社長も出席－旅行社：アクフェスツアーセンター株式会社	
11月19日 (日)			
9:00	ホテル発	・ウラジオ市内視察 自由市場、砲台跡地、砕氷船基地等視察	マイクロバス
11:20	空港着	・出国手続き	
13:50	空港発	税関で再び所持金を提出させられ検査を受ける。	SU807便
時差-1			
14:20	新潟空港着	・割烹「一歩」で合同(先に視察したメンバーと合同)懇親会－平山新潟県知事、ハワイ東西センターの趙副総裁も参加された。	

図們江開発地域概略図

